

令和7年産 はだか麦の栽培しおり

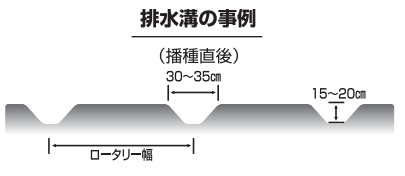
(品種名：イチバンボン)

◎適期播種・適期防除(赤かび病防除は必須)・適期収穫に努めましょう

発行：香川県農業協同組合
監修：香川 県

1. 作業の要点 栽培履歴を必ず記載し、収穫の10日前までに提出しましょう

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
排水対策 (ほ場の乾田化)	耕起 播種・排水溝の設置 (溝あげ)	麦踏み・土入れ	追肥・土入れ	追肥・土入れ	追肥・土入れ	赤かび病 アブラムシ防除	刈取り 乾燥調整	刈取り 乾燥調整
雑草防除(播種前) 種子消毒	雑草防除(初期)	雑草防除(中期)	雑草防除(中期)	雑草防除(中期)	雑草防除(中期)	雑草防除(中期)	雑草防除(中期)	雑草防除(中期)
(溝あげ) 稲刈後のワラを浅く鋤き込み、排水溝を設ける。	(雑草) 除草剤を散布する。雑草の発生が多い場合は、条間17~20cm播種深3cmとする。(ドリル播)	(雑草) 初期除草剤は、播種後から雑草の発生前までに散布する方が効果が高い。また、かげムラのないよう、丁寧に散布する。	(麦踏み)(土入れ)(雑草) 節間伸長期前(二月中旬)まで排水溝の補修を同時に行う。	(追肥・土入れ) 追肥後に土入れを行うと効果が高い。二月下旬~三月上旬にかけて追肥を行う。	(追肥・土入れ) 追肥後に土入れを行うと効果が高い。二月下旬~三月上旬にかけて追肥を行う。	(防除)(必須防除) その7~10日後に行う。赤かび病の防除は、開花始めとアブラムシ類の発生初期に防除する。	(刈取り) 下の適期である。30%以下になれば始め、25%以下になれば刈取りは穀粒水分が30%以下になるように調整する。	(乾燥) 調整後は吸湿防止を特に心掛ける。乾燥後はなるべく早く調整し、高温・急速乾燥は絶対に行わない。収穫の増加や品質が低下するのを防ぐ。収穫が遅れると中折れによる収量が減る。刈取りは3~4日間と短いので速やかに収穫する。



刈取適期目安		乾燥・調整の目安	
出穂後の目安	刈取適期の目安	仕上り水分	ふるい目
47日前後	水分含量25%以下 (穀粒に爪の跡が残らなくなった頃)	13.0%	2.0mm以上

乾燥方法(循環式乾燥機による)		
生麦の水分	張込量	乾燥機型式
30%以下の場合	容量の70%	乾燥温度は機種取扱書の指示に従う。 (高温型は50℃、低温型は45℃内外を目安とする。)
30%を超える場合	容量の60%	

排水対策を徹底し、単収向上と高品質化を図りましょう！

排水対策を徹底し、単収向上と高品質化を図りましょう！

2. 生育の目安

播種期	節間伸長期開始期	出穂期	開花期	成熟期
11月14日	2月23日	3月28日	4月4日	5月15日
11月24日	3月3日	4月1日	4月7日	5月17日

(香川県農業試験場(綾川町) H27~R6年産ドリル播)

3. 播種

種子更新を徹底し、種子伝染性の病害の発生を防止しましょう

播種適期	播種量(kg/10a)	
	ドリル播	全面全層播
11月15日~30日	7~8	13~15

・播種適期より早い播種は、過繁茂になりやすく、倒伏や凍害のおそれがある。
・12月25日播種適期より遅い播種は、収量・品質が低下するおそれがある。

4. 栽培のポイント

- 排水対策**
播種前対策：ほ場の周囲(ヨケ)と5m間隔に排水溝を設置するとともに、スタプルカルチやサブソイラー、弾丸暗きよを施工する
播種後対策：ロータリー幅ごとに深さ15~20cmの排水溝を設置し、落水口と確実に連結する
- 土づくり肥料の施用で酸度矯正(適正pH6~6.5を目安とする)**
- 適切な肥培管理**
適正な施肥量と適期の追肥
1月に葉の黄化がみられた場合に追肥(5. 肥培管理参照)
- 雑草の体系防除**
播種前・初期・中期除草剤の体系処理による雑草防除の徹底
- 病害虫の防除**
赤かび病の適期(開花始めとその7~10日後の2回)防除
- 収穫の適正化**
適期収穫・雑草種子(カラスノエンドウ・ヤエムグラ)の混入防止



赤かび病

開花期~乳熟期に高温多雨になると発生しやすい。
農産物検査規格で、0.0%以上の被害粒が確認されると規格外となるため、必須で防除する必要があります。

5. 肥培管理(土壌改良資材や堆肥を施用し、土づくりに努めましょう)

<例1>砂質土(水はけの良いほ場) kg/10a

肥料名	全量	基肥	追肥(2下~3上)	成分		
				窒素	リン酸	カリ
硫酸銨安402 (朝日BB488) (PKセーブエコ488)	70	50	20	9.8	7.0	8.4
				9.8	5.6	5.6
				9.8	5.6	5.6
土壌改良資材	60~100	60~100				

注1)1月に葉の黄化が見られる場合、追肥を10kg施用し、残り10kgを2月下旬から3月上旬に施用する。
注2)()内の肥料は低PK肥料のため、5年を目途に土壌診断を実施する。

<例2>粘質土(水はけの悪いほ場) kg/10a

肥料名	全量	基肥	追肥(2下~3上)	成分		
				窒素	リン酸	カリ
硫酸銨安402 (朝日BB488) (PKセーブエコ488)	80	55	25	11.2	8.0	9.6
				11.2	6.4	6.4
				11.2	6.4	6.4
土壌改良資材	60~100	60~100				

注1)1月に葉の黄化が見られる場合、追肥を10kg施用し、残り15kgを2月下旬から3月上旬に施用する。
注2)()内の肥料は低PK肥料のため、5年を目途に土壌診断を実施する。

<例3>基肥一発施肥体系(水はけの良いほ場) kg/10a

肥料名	全量	基肥	成分		
			窒素	リン酸	カリ
スーパーブレンドLP40 低PKスーパーブレンド	60	60	8.4	8.4	8.4
			8.4	4.8	4.8
土壌改良資材	60~100	60~100			

注)粘質土では使用しない。注)12月以降の播種では使用しない。

▼土壌改良資材の一覧表

肥料名	ケイ酸	苦土	アルカリ分	鉄分
粒状ユーキ鉄ケイカル	23	4	34	15
粒状苦土石灰	0	15	53	0

注)前年にpHの低下による酸性障害がでたほ場には、苦土石灰を100~150kg/10a程度施用する。
なお、pHを0.5上げるためには、苦土石灰約100kg/10aが必要。

6. 防除管理(農薬の飛散防止に努めましょう)

①種子消毒

病害虫名	薬剤	希釈倍数等	使用時期/回数	注意事項	作業日
裸黒穂病	ベンレートT水和剤20 ベンレートTコート	乾燥種子重量の0.5%	播種前/1回	種子1kgに対し5gを粉衣する。	

②病害虫防除

病害虫名	防除時期	薬剤	希釈倍数等	使用時期/回数	散布方法・注意事項等	作業日
赤かび病 ※必須防除	開花始め(1回目防除)	トップジンM水和剤	1,000~1,500倍	収穫30日前まで/出穂期以降は1回	10a当たり100ℓの水に(66.6~100g)溶き噴霧機等で散布する。	
	1回目防除の7~10日後	ワークアップフロアブル	2,000~3,000倍	収穫7日前まで/3回以内	10a当たり100ℓの水に(33.3~50ml)溶き噴霧機等で散布する。	
アブラムシ類	発生初期	アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫21日前まで/3回以内	10a当たり100ℓの水に(50ml)溶き噴霧機等で散布する。	

①②③について記載している薬剤の使用基準は令和6年7月1日現在のものであり、今後変更になる場合があるので、使用する際は薬剤のラベルをよく読んでラベルの記載内容どおりに使用する。

③雑草防除

区分	薬剤	対象雑草名	使用時期/回数	10a当たり使用量	散布方法・注意事項等	作業日
非選択性除草剤 (播種前)	ブリグロックスL	一年生雑草	播種前または播種後出芽前/4回以内	600~1,000ml	10a当たり100~150ℓの水に溶き、雑草の茎葉全体に均一にかかると散布する。	
	バスタ液剤	一年生雑草	播種前または播種後出芽前(雑草生育期)/1回	300~500ml	10a当たり100~150ℓの水に溶き、雑草の茎葉全体に均一にかかると散布する。	
	ラウンドアップマックスロード	一年生雑草及び多年生イネ科雑草	耕起前または播種後出芽前(雑草生育期)/3回以内	200~500ml	(通常散布) 10a当たり50~100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。(少量散布) 10a当たり25~50ℓの水に溶き、専用ノズル等で散布する。	
初期除草	ポクサー 注1)	一年生雑草	播種後~麦2葉期まで(雑草発生前~発生初期)/2回以内	400~500ml	10a当たり70~100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬量を所定の範囲内で多めにする。 ノミノフスマには効果が劣る。	
	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後~麦3葉期まで(雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)/1回	60ml	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。播種深度が浅い場合は葉害を生ずることがあるので使用しない。	
	リベレーターG	一年生雑草	播種後~麦2葉期(雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)/1回	4~5kg	手まきまたは散粒機等で均一に散布する。抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬量を所定の範囲内で多めにする。	
中期除草	ハーモニーDF	一年生広葉雑草及びスズメノテッポウ	麦3葉期~節間伸長期前(スズメノテッポウ5葉期まで)/1回	5~10g	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。器具を使用後、速やかに消石灰水500倍液でよく洗浄する。	
	エコバートフロアブル	一年生広葉雑草	節間伸長期開始期まで(一年生広葉雑草2~4葉期)(ただし、収穫45日前まで)/2回以内	50~100ml	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。散布後、軽微な白斑・褐斑を生じることがあるがその後の生育・収量に影響はない。	
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草(イネ科を除く)	生育期但し収穫90日前まで/1回	100~200ml	10a当たり70~100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。イネ科雑草には効果がなく、イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用すること。はだか麦・大麦には、使用時期が「収穫90日前まで」のため、散布時期に注意する。	
注2)注3)	MCPソーダ塩	一年生及び多年生広葉雑草	幼穂形成期但し、収穫45日前まで/1回	200~300g	10a当たり70~100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。分けつけ抑制作用があるため、茎数が十分確保されてから散布する。暖かい日が続く時期に散布すると、除草効果が高い。	

注1)初期除草剤のポクサーを播種後出芽前に処理しようとする時、すでに雑草が発生している場合は、10a当たり100ℓの水に溶き、非選択性除草剤をあわせて溶き、噴霧機等で散布する。ただし、麦が出芽している場合は麦も枯れるので注意する。隣接ほ場の作物にからないよう注意する。
注2)早播きのほ場や初期除草剤の散布が遅れたほ場、初期除草剤散布後に降雨があった場合など、雑草が繁茂している場合は、時機を逸さないよう、天候を見ながら中期除草剤により雑草防除を行う。

●各雑草に対する中期除草剤の効果

除草剤・雑草名	ヤエムグラ	カラスノエンドウ	スズメノテッポウ	タデ
ハーモニーDF	○	△	○	△
エコバートフロアブル	○	△	—	△
バサグラン液剤	○	△	—	△
MCPソーダ塩	△	○	—	△

注)○:効く △:多少は効く —:登録なし

●主要畑地雑草

種名	ヤエムグラ	カラスノエンドウ	スズメノテッポウ	ノミノフスマ	スズメノカタビラ	カスノコグサ
草姿						
防除のポイント	中期除草剤による防除	収穫前に必ず採取	初期除草剤と中期除草剤の体系防除	中期除草剤による防除	播種前と初期除草剤の体系防除	播種前と初期除草剤の体系防除